

## 第 375 回 昭和の森自然観察会

### 秋の虫と仲良くなろう「バッタ」

萩 将勝(千葉市)

日 時：2023 年 9 月 10 日（日） 10:00～12:00 天気：晴れ

参加者： 21 名（男 5 名、女 5 名、子ども 11 名）

指導員 9 名、 協力者 2 名、管理事務所 1 名

担当指導員： 佐野、萩

9 月と言うのに夏本番の暑さ、受付の間、ムネアカハラビロカマキリを見つけた子達がカマキリのつかみ方で盛り上がっている。歩道には、ハスモンヨトウの幼虫がぞろぞろ。

今回は全員で 21 名、日陰で挨拶、注意点を話し、2 班に分かれて出発です。

冒険広場の縁の草原を下りながらのバッタ探し。直ぐに“捕まえた”との声の方々が上がります。顔の尖ったオンブバッタ、ショウリョウバッタ、ショウリョウバッタモドキ、顔の丸いクルマバッタ、ヒナバッタ、ツチイナゴ、とその幼虫、キリギリスの仲間のクビキリギリス、みな夢中で追っかけています。冒険広場の上に戻った所に、赤い実を付けたヤマボウシの木があり、皆でその実を味わい、その上にある日陰で給水タイム。

滑り台に向かう途中では、真っ赤に色付いたマイコアカネ、キタキチョウ、アブラゼミを取り、エゾシモフリスズメガの幼虫を見つけ、触る、触らないで騒いでいる。こぶしの実が落ちている。赤い種を引っ張ると実と種が糸でつながってぶらさがる。タマムシの死骸を見つける。滑り台の急坂を下り中菖蒲田に、スジグロシロチョウ、ホソミイトトンボ、大きなニホンアカガエル、湿生植物園、田んぼへと向かう。草むらには、沢山のイナゴが足元から飛び出す。オニヤンマが川筋を飛んでいるが捕獲できず。顔の黒い 2 本の角がある、かわいいクロコノマチョウの幼虫をシオカラトンボと一緒にゲット。

田んぼのわきのベンチでバッタの身体について説明、残念ながら、コオロギがいなかったと話すと、“僕捕ったよ” オカメコオロギ、これでバッタの 3 種類を観察する事が出来ました。帰りには、指導員がシュロで作ったキリギリスをお土産に、大人の方もお子さんも、皆さん、昭和の森の自然を十分に満喫してお帰りになりました。



捕ったチョウを三角紙に入れて観察



赤ガエルに催眠術を